



ご挨拶

本日は“*A-Winds37*”2012年夏の演奏会にお越し下さり、誠に有難うございます。「こころ豊かな文化の香り高き町 大和郡山市」のお城の麓“やまと郡山城ホール”で皆様方と、こうしてお逢いすることができましたことに、*A-Winds*一同、心より感謝申し上げます。1999年10月“アンサンブル”という少人数の音楽スタイルの延長上にと位置付け“ウインドオーケストラ”と称し、大人数の編成で、選都1300年の歴史を誇る奈良の都に発足しました。

同年の秋に初の舞台“デビュー演奏会”を開催、以後四季折々に開催する、*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラの定期演奏会もお陰さまを持ちまして、第37回目の演奏会を迎えることができました。これもひとえに、我々*A-Winds*の活動、そして音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援の賜物と、国を代表致しまして、心より厚く御礼申し上げます。

演奏面は勿論、運営面において、団員一人ひとりが『主人公』ということと、吹奏楽本来の特徴を最大限引き出す『吹奏楽オリジナル作品』を中心に取り上げることを活動方針に掲げ、アマチュアながらも音楽表現の研究に、作曲家の方々を実際に練習にお招きして、作曲家自身による作品の生い立ちや、楽曲の紐解き解説を聞きながら合奏指導を受けたりと、様々な啓蒙にも取り組み、活動を続けて参りました。

今回は*A-Winds*にはとても馴染みの深い、関西を舞台にプロの演奏家として活躍中の中、この春に奈良文化高校教諭にご着任され、新たな舞台でのご活躍を期待のかかる、吉崎直之氏を客演指揮者にお招きし、2つの対局作品を中心に演奏を披露致します。

一つは、ヨーロッパの文化革命、戦争、ルネサンス文化の描写音楽。もう一つは、その古きヨーロッパ文化と現代のアメリカが、讃美歌という音楽による運命的な巡り合いで生まれた、ギリングハム人気No.1作品の標題音楽。時代と国と文化の異なる2つの作品を、吉崎直之氏の渾身のタクトで、舞台、そして客席の皆様と一緒に陶醉しライブ音楽に身を委ねられればと願っております。

風に乗り 声のパートの 屋気楼

今後とも、温かい御指導御支援の程、宜しく御願申し上げます。

*A-Winds*奈良アマチュアウインドオーケストラ 団長 魚谷昌克

*

本日は“*A-Winds37*”2012年夏の演奏会へようこそお越し下さいました。

1999年の設立以来、平均すると4ヶ月に1回というハイペースで演奏会を開催させて頂いていますが、毎回、多くのお客様に会場へお越し頂けるからこそ、これまで変わらず続けられているのだと、演奏会の日を迎える度に感謝しております。

今回のプログラムにタイトルを付けるなら、『ワクワクする日曜日』です。パレードの先頭を行く楽隊車という意味の「バンドワゴン」で賑やかに幕を開けた後、美術館の探検あり、落語鑑賞あり、アルプスへの旅ありと盛り沢山の内容をお届けします。バラエティーに富んで、演奏していて楽しい(時には苦勞もありました...)曲たちです。皆様にも最後までお楽しみ頂き、演奏会の後には、足取り軽くホールを後にして下さることを願ってやみません。

最後になりましたが、本公演開催にあたりご支援を賜りました方々に、演奏会実行委員を代表して、心より御礼申し上げます。

“*A-Winds37*”2012年夏の演奏会 実行委員長 長尾 恭子



ご案内

“*A-Winds38*”2012年秋の演奏会

2012年11月4日(日) 14:00開演 やまと郡山城ホール 大ホール

“*A-Winds38*”2012年秋の演奏会では、ピアノのある吹奏楽曲を集めてみました。一般的に多くの人々になじみのあるピアノですが、吹奏楽曲の中では少しめずらしい楽器です。

吹奏楽独特の音色に、ピアノのニュアンスが加わったプログラムを、どうぞお楽しみください。

“*A-Winds38*”2012年秋の演奏会 実行委員長 八木 真木



A-Winds 奈良アマチュアウインドオーケストラ

Piccolo	佐藤 由加里	Trumpet	魚谷 昌克
Flute	佐藤 司		表 恭子
	魚谷 陽子		竹腰 綾香
	西村 美音		井上 寛治
	大西 このみ		谷田 弥生
Oboe	松井 志穂	Trombone	萱原 淳嘉
	楠谷 牧子 ☆		小泉 文浩
E♭ Clarinet	長尾 恭子		進藤 梓
B♭ Clarinet	竹村 明恵		田中 由美
	森本 幸恵		徳田 篤彦 ☆
	日野上 昌里佳	Euphonium	藤村 晃世
	近藤 晴美		尾登 勇介
	飯田 琴音		池内 砂織
	鶴田 祐貴	Tuba	岸本 和
	米田 彩乃		川田 栞 ☆
Alto Clarinet	大西 晴己	Contra Bass	佐藤 良一 ☆
Bass Clarinet	辻田 綾子	Percussion	森田 晶
Bassoon	満江 孝文		谷口 麻子
	萱原 美華子		久保 寛美
Alto Saxophone	島田 博一		川本 理恵
	三宅 利幸		松嶋 春香
Tenor Saxophone	初岡 和樹		浦野 佳美
Baritone Saxophone	宮本 祐輔		荒川 華澄 ☆
Horn	久野 耕三	Piano	八木 真木
	次田 哲平		
	小林 計昭	Stage Manager	伊藤 耕平 ☆
	大田 雅美	Announce	佐古 智奈美 ☆
	村上 和代 ☆		
		団員=46名	
		☆=エキストラ	

“*A-Winds37*”2012年夏の演奏会 実行委員

実行委員長	長尾 恭子
宣伝(チラシ)	田中 由美・谷田 弥生
宣伝(ミニレター)	佐藤由加里・鶴田 祐貴
宣伝(ウェブ)	井上 寛治
宣伝(マスコミ)	萱原美華子
渉外	森田 晶
ロビーコンサート	岸本 和・竹腰 綾香・大西このみ
プログラムノート	宮本 祐輔
印	佐藤 司



2012年6月24日(日) 13:30開場/14:00開演
やまと郡山城ホール 大ホール

主催●*A-Winds* 奈良アマチュアウインドオーケストラ
後援●奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟



プログラム

◇第1部

ザ・バンドワゴン 団員指揮者：魚谷昌克

THE BANDWAGON

作曲：フィリップ・スパーク／Philip Sparke

出版：Anglo Music Press

美術館の一日

A DAY AT THE MUSEUM

作曲：ジェームス・カーナウ／James Curnow

出版：Curnow Music Press

第一楽章 散歩／Promenade

第二楽章 風景画／Landscape

第三楽章 肖像画／Portrait

第四楽章 海洋画／Seascape

第五楽章 彫刻／Sculpture

ウィズ・ハート・アンド・ヴォイス 客演指揮者：吉崎直之

WITH HEART & VOICE

作曲：デイヴィッド・R・ギリングハム／David R. Gillingham

出版：C. Alan Publications

◇第2部

客演指揮者：吉崎直之

吹奏楽のための綺想曲「じゅげむ」

"Jugemu" Capriccio for Wind Orchestra

作曲：足立正／Adachi Tadashi

出版：All Japan Band Association

交響詩「モンタニャールの詩」

POEME MONTAGNARD

作曲：ヤン・ヴァン・デル・ロースト／Jan Van der Roost

出版：de haske



プログラムノート

ザ・バンドワゴン／フィリップ・スパーク

フィリップ・スパークはイギリスの作曲家で、英国式プラスバンドおよび吹奏楽の作品を多く手掛けています。日本でも非常に人気の高い作曲家です。

バンドワゴンとは典型的なA-B-A形式をもつコンサートマーチであり、演奏会の幕開けにふさわしい明るく爽やかな曲です。トリオ部のユーフォニアムのソロなど、スパークらしいテクニカルな要素が特徴的です。

美術館の一日／ジェームス・カーナウ

美術館の絵画や彫刻を題材に、美術品の印象や鑑賞者の心象を表した作品です。それぞれの楽章のあらわす内容はサブタイトルの通りですが、作曲者の解説では更に具体的な作品名についても触れられています。

第一楽章 散歩

第二楽章 風景画：ゴッホ「糸杉のある麦畑」・ロラン「田園風景」

第三楽章 肖像画：マネ「笛を吹く少年」

第四楽章 海洋画：モネ「Antibes」・コプレー「ワトソンと鯨」

第五楽章 彫刻：リュード「1792年の義勇兵たち」

ウィズ・ハート・アンド・ヴォイス／デイヴィッド・R・ギリングハム

この曲は米国ミネソタ州にあるアップル・ヴァリー高校の委嘱作品であり、主題となっているのはこの高校の校歌である古いスペインの聖歌“Come, Christians, Join to Sing”です。作曲者のギリングハムもこの聖歌に興味を持ったため主題として用いられました。

曲はフルートのトリルの下で打楽器とピアノが奏でる静かな動きで開始され、木管、金管がそれぞれテーマの断片を奏しながら高まります。金管の高らかな響きが静まると、フルートやユーフォニアムが作曲者のオリジナルであるコラールを演奏し、テンポを早めて激しいリズムへと移ります。この後金管によってはっきりと古い聖歌のテーマが歌われ、序奏と提示部を作ります。

第1変奏は木管が短調ムードでテーマを奏します。第2変奏は細かいリズムの変奏となり、金管が主題の断片を奏するドラマチックな変奏です。第3変奏はゆるやかなテンポで静まり、フルートやサクソフォンが清らかに歌い、変拍子のリズムが特徴的な第4変奏ではティンパニが活躍します。最後の再現部では金管がクライマックスへと盛り上げ、厚いサウンドで主題を奏し曲を閉じます。

吹奏楽のための綺想曲「じゅげむ」／足立正

2012年度全日本吹奏楽コンクール課題曲であるこの曲は、古典的な言葉遊びとして知られる「寿限無」を題材としています。曲自体は「寿限無」のストーリーを描写したものではなく、男の子の名前自体が持っているリズムの面白さを音楽で表現したものです。「寿限無」は、産まれた子にめでたい名前をつけようと縁起の良い言葉を並べた挙句、とんでもなく長い名前になってしまったという小噺です。曲中で現れるリズムカルなフレーズは、寿限無～から始まる言葉に対応しています。

寿限無 寿限無 五劫の擦り切れ 海砂利水魚の 水行末 雲来末 風来末
食う寝る処に住む処 やぶら小路の藪柑子 バイポパイポ バイポのシュー
リンガン シューリンガンのグーリンダイ グーリンダイのボンポコピーの
ボンポコナーの 長久命の長助

交響詩「モンタニャールの詩」／ヤン・ヴァン・デル・ロースト

ヤン・ヴァン・デル・ローストはベルギーの作曲家で、現在はベルギーのレメンス音楽院で教鞭を執るほか、日本の音楽大学の客員教授を務めるなど日本での活動にも力を入れています。

この曲は、イタリア北部のヴァレ・ダオスタ州の市民バンドの委嘱により、1996年に作曲されました。かつてイタリアのこの地域を統治したカトリーン・ドゥ・シャランという女性が曲のモチーフです。モンタニャールとはフランス語で「山岳地方」という意味であり、ヨーロッパの屋根とされているモンブランのある地域を表しています。曲はモンブラン地域の厳しい自然の描写で始まります。厳かな雰囲気の中でトランペットにより主題が提示され、木管群を加えながら発展し、輝かしい最初のテーマに向かいます。強烈なフラッター奏法による不協和音の後、がらりと雰囲気を換え、リコーダーカルテットによってルネッサンス・ダンスが軽やかに演奏され、それはバンド全体へと受け継がれます。その後にユーフォニアムが歌う優しく叙情的なメロディーは、カトリーン・ドゥ・シャランの生涯で常に大きな役割を果たしたであろう「愛」を表現しています。そしてこれまでに登場したテーマを再現し、金管楽器によってルネッサンス・ダンスが奏され、壮大なフィナーレをもって交響詩は幕を閉じます。

(文：宮本祐輔)



プロフィール

吉崎直之



京都市立堀川高等学校音楽科(現京都市立京都堀川音楽高等学校)、京都市立芸術大学音楽学部卒業。トランペットを八木茂夫(京都市交響楽団)、北村源三(NHK交響楽団)、藏野雅彦(京都堀川音高)、有馬純昭(京都市交響楽団)、指揮法を伊吹新一の各氏に師事。大学在学中よりトランペット奏者として活動し、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、宝塚歌劇オーケストラ等に客演。

平成18、20、21年度文化庁派遣講師、同志社女子中・高等学校、奈良県立高円高等学校音楽科、京都市教育委員会吹奏楽特別非常勤講師などの講師を歴任し、これまでに奈良県内外の多数の吹奏楽団、オーケストラ、合唱団を指揮指導する。今年4月より、奈良文化高等学校教諭。



A-Winds メンバー募集

●募集パート

- | | | |
|----------|-------------|----------|
| ・オーボエ | ・ファゴット | ・トロンボーン |
| ・パーカッション | ・ステージマネージャー | ……………各1名 |
| ・チューバ | ・コントラバス | ……………各2名 |
| ・ホルン | ・Bbクラリネット | ……………各3名 |

- A-Windsの活動趣旨(ウインドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
- ご自分で楽器を準備できる方
- 全ての活動に賛同頂ける方
- 18歳以上の方
- 詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は<e-mail>a-winds@amber.plala.or.jp